
社会医療法人 近森会理事長 入江 博之

はじめに

2025 年は、近森会にとって「生き残るために変わる」ことを、病院経営の現場で具体的に形にし始めた一年でした。物価高騰、人件費上昇、人材確保難、診療報酬上の制約など、医療機関を取り巻く経営環境は一段と厳しさを増しています。その中でも、急性期医療、救急医療、回復期医療を地域で持続していくためには、単に我慢して現状維持を図るのではなく、医療の質を守りながら、経営基盤と業務の仕組みを同時に組み替えていく必要があります。2025 年は、そのための投資と改革に本格的に着手した一年でありました。



理事長 入江博之

社会情勢

全国的に病院経営は厳しい局面にあります。少子高齢化と人口減少により地域の医療需要の構造は変化し、医療・介護人材の確保は年々難しくなっています。加えて、エネルギー価格や資材価格の上昇は施設維持コストを押し上げ、医療材料費や委託費の増加も経営を圧迫しています。高知県においては南海トラフ地震への備えも避けて通れません。こうした環境下で病院が地域の期待に応え続けるためには、収支改善だけでなく、災害対応力、業務生産性、地域連携を含めた総合的な経営改革が求められています。

2025 年の取り組み

この一年、近森会では「挑戦」と「成果」を意識しながら、将来の持続可能性を高めるための施策を進めました。施設面では、薬剤タワーと本館・北館を結ぶ空中通路の工事に着手しました。これは薬剤の安全な保管、院内動線の改善に加え、災害時に薬剤、水、食料を確保しやすくする重要な投資です。あわせて、個室増設や正面玄関周辺のワンストップセンター化構想を進め、患者さんの利便性向上と外来機能の再編にも取り組みました。

業務運営の面では、医事電算センターの整備を進め、入退院に関わる医事会計を少ない人員でも安定して処理できる体制づくりに着手しました。さらに、PHS からスマートフォンへの移行、GE 社コマンドセンターの導入、生成 AI 活用チャレンジ 2025 の開催など、DX を現場の業務改善に直結させる試みを進めました。電子カルテ上での AI 活用も視野に入れ、限られた人材で質を維持するための新しい働き方を模索しています。これらは単なるデジタル化ではなく、経営を支える生産性向上策そのものです。

プロジェクト 1 北館～本館一体化 及び 薬剤タワー建設プロジェクト  60% CHIKAMORI - クラウドファンディング達成 2026年6月末に完成予定	プロジェクト 2 近森会「がんばったぞ賞」 (業績運動型賞与)  完了 2024年度分を2025年6月ボーナスに追加支給 2025年度以降は業績次第	プロジェクト 3 医事電算センター新設 ～デジタル化で未来を拓く～  完了 2025年10月健康管理センターを近森リハビリテーション病院に移設 12月に管理棟7階へ引越し完了
プロジェクト 4 保育室そとリニューアル ～仕事をしながら子育ても～  完了 2025年3月に拡張工事完了	プロジェクト 5 医療DXによる地域連携の革新 「コマンドセンター」  完了 2025年1月より構築を開始 9月から運用をスタート	プロジェクト 6 生成AIを使いこなそう  50% 2025年4月に第1回AI学習コース実施 10月に生成AI活用チャレンジ2025開催 12月にチームAX発足

2025 年に進展した主なプロジェクト

今後の展望と対策

今後は、これらの改革を単発で終わらせず、病院経営の体質改善へと結びつけていくことが重要です。第一に、医療の質と安全を守る基盤として、人材確保と人材育成に継続して投資してまいります。第二に、DXとAI活用をさらに進め、省力化と標準化を進めながら、職員が本来注力すべき医療・ケアに力を振り向けられる体制を整えます。第三に、薬剤タワー、空中通路、BCP整備などを通じて災害に強い病院づくりを進めます。第四に、高知メディカルアライアンスを軸に地域全体で患者さんを支える仕組みを強化し、地域における近森会の役割をさらに明確にしてまいります。

厳しい時代であるからこそ、変化を恐れず、成果につながる挑戦を続けることが必要です。近森会はこれからも、患者さん中心の医療を軸に据えながら、持続可能で災害にも強い経営基盤を築き、地域に信頼される医療法人であり続けたいと考えています。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会医療法人近森会 理事長
入江 博之